

東日本大震災後の観光による復興の困難性

氏名 齋藤勇斗

要旨本文（文字数は自由）

東日本大震災により、広い範囲で未曾有の被害をもたらされ、海岸地域では津波による被害が大きかった。しかし、同じ海岸沿いの地域である石巻市と気仙沼市に観光客数の回復の差があり、石巻市の方が観光客数の回復が早かった。本稿では、石巻市と気仙沼市の2つの地域において、石巻市のほうが観光客数の回復が早かった要因を明らかにする。調査方法はそれぞれの市役所に取材を行い、質問の答えから考察する。

まず、石巻市はダークツーリズムという被災地としての観光に加え、インバウンドや伝統的な祭りなど様々な楽しめる観光を実施していた。また、ボランティアの方々による復興の手伝いによってハード面の復旧が早まった。一方、気仙沼市はダークツーリズムを軸とした観光を実施し、楽しむ観光ができていなかった。また、被災による交通の困難性により、ボランティアの方々が石巻市よりも多く来られなかった。そのため、復興が遅くなり、観光に手を付けることができていなかった。これらのことから、石巻市には被災地としての観光だけでなく楽しめる観光も実施しているという二面性があり、気仙沼市にはその二面性がなかった。この二面性があることによって様々なニーズに応えることができ、多くの観光客によって賑わいのある街並みへの復興が可能である。